

北商連ニュース

発行
北海道商工団体連合会
札幌市北区北6条西7丁目
小貫印刷センタービル6階
011-717-3800
Mail: hokusho@deluxe.ocn.ne.jp
2025年7月 第84号

戦争の恐ろしさ核の怖さ

世代を超えて伝えていきたい

道婦協・第28回 婦人部学校

28回目となる道婦協「婦人部学校」が6月8日に札幌市内で開催され、全道から57人が参加しました。



大村一夫氏

主催者挨拶で道婦協・後藤裕子会長が「帯広民商婦人部が管轄する大樹町で先日、『所得税法56条見直しを求める意見書』が採択されたとの報告を受けた。採択を勝ち取るまで粘り強く取り組んだ成果に学んで、残りの自治体でも採択を」と報告し、「この学校で学



ば、大村一夫さんの講演がありました。大村さんは、被爆から3年後に原因不明の高熱を発症し1年半にわたって治療し復帰しましたが、1954年ビキニ環礁で行った水爆実験で日本の漁船が巻き込ま

れ乗務員が被爆、死亡した「第五福竜丸事件」で、放射能の影響や後遺症が広く社会に知られるようになり、一気に死への不安に襲われます。それまで友人に被爆体験を話していたため、周知から次々と周りの声をかけられ、仲間の思いやりから逃げ無理やり中学校転校を決意し、被爆体験を封印しました。しかし、「自分には時間が無い」という言葉が頭から離れず、将来に對して希望も持てずに過ごすなか、医師になった同級生が診察してくれたことをきっかけに、今日まで語り部を続けるようになったことを語りました。また、当時の様子を記憶で描いた絵画で説明しながら、戦争の悲惨さを訴えました。

現在大村さんは、現役高校生らと語り部活動が続けられており、「被爆体験者の多くは90歳を超えており活動が困難となっている。ぜひ、学生らにも語り部の機会を与え、戦争や核の恐怖を多くの人々に伝える活動に協力してほしい」と呼びかけました。

昼食後、8テーブルにわかれて「グループトーク」が行われ、参加者の自己紹介と各民商婦人部での活動

内容が話されました。参加者から「大村さんの被爆体験で、改めて核の恐ろしさを痛感した」「グループ

消費税に頼らなくても

税収はまかなえる

道社保協総会

6月21日、北商連も加盟する「北海道社会保障推進協議会（道社保協）」の総会が札幌市内で行われ、記念講演で不公平税制をたす会の浦野広明税理士が講演しました。

「消費税・基礎控除の問題点と不公平税制の是正」と題し浦野氏は、戦後の民主的税制の確立と消費税導入の経緯を説明。自公政権の「消費税は社会保障の財源」と言い訳し、弱者を食い物にする消費税実態を告発しました。また、国の予算における歳入・歳出の内容を説明し、税収の3割以上が消費税になり、国債の



プトークでいろいろな話ができ楽しかった」など感想が寄せられました。

利払い等が10兆円を超えるなど問題点を説明し、「法人税や住民税を累進化することで、消費税に頼らなくても税収はまかなえる」

「軍事費や国債金利を減らす」など税の取り方と使い方を指摘しながら、「政治を日常生活に入れ、国民参加の政治社会にすること」の重要性を訴えました。

参加者から「食料品消費税ゼロ%の効力」を問われ、浦野氏は「食料品ゼロ%では大きな効果は得られない。全て取引で消費税率5%に減税できれば、2・3倍の効果がある」と強調しました。

「戦争国家づくり」 けして許されない

田中照巳講演

5月24日に札幌で開催された、『祝・日本被団協ノーベル平和賞受賞・田中照巳講演』は、520人収容の会場を一杯にし、約350人以上を帰すほど盛況となりました。会場で視聴した北商連・中村智美事務局員の手記を紹介します。

田中さんは長崎原爆の被害者の一人で、13歳のときに爆心地から3キロ余離れた自宅で被爆されました。身内の方々の命も奪った原

子爆弾は言葉にできない恐ろしさで、多くの人が死んでいく姿を目の当たりにした当時の苦しいお話をされました。

「政治を変え新しい時代を開くのは、主権者である未来を担う若者です。誰かがやってくれるものではない、どうやったら核兵器をなくせるか、みなさんに考えてほしい。身の回りに同じ気持ちで行動するひとを広げていくことが大事」田中さんのメッセージに心を動かされました。

核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて、政府は核兵器に向けた具体的な計画や行動は一切示さず、今回のニューヨークで開催される（NPT）再検討会議にも参加はありませんが核兵器平和条約に背を向けるのではなく、戦争をしないと誓った憲法を尊重、重視しなくてはなりません。平和な未来のために、私たち一人一人が行動を起こすことが大切なことです。

「戦争国家づくり」はけして許されません。戦後、被爆80年を迎え、戦争をしないと誓った憲法を生かしていくべき行動をしなければいけないことを強く思いました。



鶴を手に田中さん

順風満帆

自分が通っている自宅近所の喫茶店にはいろいろな客が来る。その一人、自分と同じ苗字の高齢者は、ほぼ朝から晩まで店内にある麻雀ゲーム機を打っている。大昔、麻雀ゲーム機やポーカーゲーム機のある喫茶店では「換金」を行っていたが、今ではそんな店はない。そんな麻雀ゲーム機に百円玉を入れて、朝から晩まで打っているとは「よほどお金持ちの高齢者なのか」と思ったが、どう見てもそんな感じには見えない。喫茶店のママに聞くと、千円で三千元分位の百円玉を渡して遊んでもらうとの事。「趣味や行くところのない高齢者の『憩いの場』として提供している」と話すママさん。コーヒーやちよとした食事も提供している。時々、ママの友達らが集まって行く、近所の雀荘で麻雀大会に誘って、点数計算や指導をしてもらっている。そう、その麻雀ゲームの高齢者が4月末から突然来なくなった。実はこの方、一人暮らしの生活保護者。携帯電話を所持しておらず連絡がとれない。心配した喫茶店のママさんが市役所に電話するも「個人情報なので答えられない」の一点張り。本人がどうなっているのかも教えてくれないようだ。市役所では「安否確認は行っている」と言うものの、その安否は家族以外、毎日顔を合わすような友人にも教えられないらしい。あまりに話をしたことは無かったが、今思えば、その方に最後会った時、薬を飲んでいたので「何の薬」って聞くと「風邪薬」って答えたが、それは鎮痛剤だった。札幌で一人暮らしの自分も同じような境遇。あらためて健康管理など深く考えさせられる出来事だった。（井上）

道内民商ニュース

異業種交流会や 名刺交換会を

札幌西民商

5月17日、手稲区本町の『もり蔵』さんで6年ぶりに『花見会』を開きました。当日は札幌西民商・手稲支部の役員会員をはじめ12名が参加。木村会長の挨拶、手稲会計の赤木さんの乾杯で宴会がスタートしました。ほとんどの方が「初めまして」で自己紹介が進むと「〇〇にお住まいですね」「以前お会いしましたね」など意外なつながりが見つかるといっていました。お料理はどれも美味しいものでしたが、男性陣が多かったこともあり宴会コースの料理では物足りず、お店に良くて来るというさんおすすめの料理をはじめ、追加で注文するほどでした。

座席の都合上、全員と交流することができました。



流とはなりませんでしたが、「異業種交流会や名刺交換会をしてほしい」など要望も出るなど、久しぶりの交流会に楽しい時間を過ごすことができました。

楽しかった

また参加したい

函館民商・共済会

6月7日ポウルサンシャインにて、函館民商共済会主催「第11回ポウリング大会」が開催され7名が参加しました。

最初に藤井理事長が始球式を行い、ゲームをスタート。参加者のほとんどが1年振りのポウリングとあって始めは、なかなか調子が出ませんでした。直球のミスを投げる人が多いなか、曲がる魔球を操る人や打球フォームにこだわる人もいて、連続ストライク・スベアも出るなど大いに盛り上がりしました。

大会は今までと同じく2ゲームを行い、合計スコアで順位を決めました。2ゲーム目に慣れてきてスコアを伸ばす人、スタミナが切れて伸び悩む人などさまざまでした。結果はスコア260を記録した五稜郭支部【齋藤ブラシ製作所】の齋藤英司さん（共済会副理事



長）が優勝しました。

ゲーム終了後、当初は予定していなかった景品でしたが、会員さんからの提供されたお菓子やビールなど成績上位者から順に景品を手に入れました。

参加者からは「楽しかった、また参加したい」「明日は確実に筋肉痛だね」など感想が寄せられました。

ごみを減らして

地域でリユースを

札幌中部民商・婦人部

札幌中部民商婦人部では6月4日に『リサイクルプラザ宮の沢見学&ランチ会』を開催しました。

リサイクルプラザ宮の沢では、はじめに家具や自転車の展示コーナーを見学。リサイクルプラザで行っている様々な活動や、その目的などについて職員の方から説明を聞きました。他にも小物や服を買えるところや無料で持ち帰ることがで

きる食器コーナー、生ごみ堆肥化コーナーなどを回りながら見学しました。

2階に移動し、おもちゃの病院を見学。0歳の娘を連れてきた佐賀さんは「ぬいぐるみを修理できるだろうか？」と職員の方に質問していました。最後にゴミ分別のDVDを視聴後、「傘」「長靴」などごみの名前が書かれたカードを掲示板に分けて貼っていくゴミ分別ゲームも行いました。

見学後のランチ会では「わかっていなくてわからなかったことが知れてよかった」「なるべくごみを減らして地域でリユースできるようにしたいね」と楽しく食事をしながら交流しました。



若い婦人部員が

参加しやすい活動を

小樽民商・婦人部

小樽民商婦人部の定期総会が5月17日に花園会館で開催されました。

冒頭石山喜代美婦人部長は「昨年は4年ぶりにビヤ

顔で帰っていききました。

支部総会で

新たな役員3人誕生

札幌東部民商

5月28日、焼肉後楽園で札幌東部民商・江別支部総会を開催し8名が参加しました。

工藤会長から「江別支部の頑張りが他の支部に良い刺激を与えている。今、民商の役員の高齢化で大変な状況になっている。ぜひみなさんの力を貸してください」と訴えました。

支部総会では、新たな支部役員が3名も誕生しました。うち2名は入会3年未満の会員です。「自分のできることなら協力します」と引き受けてくれました。

次期理事の推薦は森谷さんになりました。森谷さんは、北商連の総会に参加して「もっと東部民商が表彰されるようになりたい」と話しており、「できることは協力します」と理事を引き受けてくれました。

支部総会の中で、毎年恒例になっている「パークゴルフ交流会」の話になり、「やっぱりパークゴルフが終わった後は、参加者でジギスカンを楽しみたいよね」「会場探しを急ごう」とレクリエーション企画も話し合いました。

「江別支部の活動を見て、豊平支部が活動再開しました」との報告に、支部長の

石元さんは「各支部が活発に動き出して、民商を盛り上げていこう」と力強く宣言してくれました。

青年部からできる

楽しい活動を

札幌北部民商・青年部

5月30日夜、札幌北部民商青年部会が開催され、今年8月に開催される「民商ふれいまつり」に向け話し合が行われました。

これまで青年部が出品してきた品目の確認と「どう運営していたのか」など過去の資料をもとに、出店に向け話し合いました。

青年部所有のかき氷機をみて「電動のマジな奴だ」「使う前にきれいにしよう」

など、最近入会したばかりの青年部員や、部員同士だけど初めて話す部員もいますが、すぐに打ち解けて話も盛り上がり、具体的に準備や役割分担を細かく決めていくため、本番までに、再度集まることも決めました。また、6月25日に行われる「北見イイ店発見はしごラリー」の参加者も4人に決まり、北見の部員にも連絡を取り、前売券の取り置きと宿を確保しました。

部会の中で渡邊部長から「理事会ではこんな話をしたい」と、現在民商で取り組んでいる仲間増やしの運動や、消費税署名なども報告され「一緒にやろう」と、呼びかけました。